



動物園の運営費支援拡大に向けた新たな取組

事務長 吉田 淳一

近年、さまざまな物価の上昇により、動物の飼料費や動物舎の暖房費などもその影響を受け、動物園の運営を圧迫しています。

大森山動物園では、個人の方をはじめ、企業や団体などさまざまな方からご寄附等をいただき、飼料費や暖房費、施設の修繕費など、動物たちが幸せに暮らすための費用に充てさせていただくため、新たな取組を始めました。

取組 1

動物サポーター制度を導入

動物サポーター制度は、動物の種類や動物園の施設ごとに寄附金額を設定し、企業や団体からサポーターを募る制度で、先行して実施している動物園を参考に制度を作りました。サポーターになると、企業名などを記載したプレートが動物舎などに掲示できるほか、支援動物舎の見学や、支援動物の写真を使用して自社のホームページなどでサポーターであることを発信できるなどの特典があります。2025年3月時点で13者をサポーターに認定予定です。



動物サポータープレートの掲示(アフリカゾウ)



穂積市長も出席した動物サポーター認定式(2024年9月1日)



取組 2

Amazonほしい物リストの活用

すでに多くの動物園や水族館などで活用している「Amazonほしい物リスト」を導入しました。動物の飼育環境の向上などに必要な物品のリストをAmazonのショッピングサイトに掲載し、購入された方から物品による寄附という形でいただきました。

Amazonほしい物リストは、飼育現場や動物病院などで必要とする物品が到着後すぐに使用できるメリットがあることから、今後も有効に活用していきたいと考えています。



スポットクーラーで涼むモルモット



インコ舎に設置した観葉植物(シルクジャスミン)

秋田市ふるさと納税の制度を活用し、動物園の運営費を支援いただくクラウドファンディング（以下、CF）を、2024年10月1日から12月31日まで実施しました。

今回のCFは、大森山動物園がこれまで力を入れてきた種の保存や教育活動、動物福祉の取組などを知ってもらい、今後も大森山動物園が安定した運営を継続していくためのさまざまな運営費を支援していただくことを目的としています。

ご支援に対する返礼品は、秋田市ふるさと納税の返礼品に加え、飼育員が手描きでデザインした人気動物のオリジナルトートバッグのほか、動物との記念撮影や園内散歩といった体験メニューを用意しました。

CFの実施に際し、目標金額を500万円に設定しましたが、大変ありがたいことに、11月上旬には目標金額を達成し、最終的に833人の方から、1,600万円を超えるご支援をいただきました。



クラウドファンディング紹介ページ(ふるさとチョイスGCF®より引用)



トナカイとの園内散歩



オリジナルトートバッグ

動物園の主な収入は入園料であり、入園者を増やすためには魅力ある動物園づくりが今後も不可欠ですが、今回ご紹介した取組により、地元の動物園を応援したいという方をはじめ、直接来園する機会は少ないが大森山動物園を応援したいというお気持ちを持った方が全国にいることを改めて知ることができ、職員一同深く感謝しております。

今後も応援いただいた方々のお気持ちにお応えし、動物たちが幸せに暮らせる動物園となるよう職員一丸となって取り組んでまいります。

応援会様からエサ販売小屋の制作をご支援いただきました



リニューアルしたサルのエサ販売小屋(前面・背面)

有志会員による秋田市大森山動物園応援会様からは、毎年、物心両面から応援とご支援をいただいております。今年は「サル山のエサ販売小屋をリニューアルしたい!」という飼育員の提案を受けて、制作費をご支援いただきました。サル山のエサやり体験の際は、「見ざる、聞かざる、言わざる」の大森山三猿のイラストもお楽しみください。

